

団体名	国立大学法人島根大学国際センター						
事業名	しまねの里山と世界をつなぐ縁結びプロジェクト2021 in 邑南町 －日本の地域と世界の社会福祉について考える－						
実施期間	2021年9月18日, 2021年9月22日, 2021年12月8日～2022年1月7日						
場 所	Zoomによるオンライン開催						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	30		4	40	6		80名

<実施内容>

島根大学国際センターは、「しまねの里山と世界をつなぐ縁結びプロジェクト2021 in 邑南町－日本の地域と世界の社会福祉について考える－」と題し、第12回目となる島根大学留学生研修事業を実施しました。この事業は、毎年、本学と包括協定を結んでいる島根県の邑南町で行っていますが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催となりました。交流は3回にわたり実施し、留学生・邑南町住民ともに多数の参加がありました。

第1回目(Day1)は邑南町の通訳ボランティアと交流を行い、福祉と教育をテーマにディスカッションしました。福祉のテーマでは、邑南町が推進する東京パラリンピックの正式種目「ゴールボール」を主な話題とし、参加した留学生は積極的に質問していました。

第2回目(Day2)は邑南町の石見東小学校の児童とクイズを通じた交流会を開催しました。それぞれの出身国や地域の紹介をクイズにすることで互いの理解が進んだほか、打ち解けた雰囲気での交流会となり大変盛り上がりしました。

第3回(Day3)は、邑南町的美穂神楽団の方々との交流会を行いました。団員の方が動画も交えながら神楽について丁寧に説明して下さったことで、参加留学生は現地の伝統文化への理解を深めたようです。このイベント後には動画を介して神楽団団員と留学生がやり取りする交流も行いました。

それぞれの交流会では、邑南町在住の様々なバックグラウンドを持つ方々と留学生が、多様なテーマに沿って意見を交わすことができ、オンラインでの開催ながらも双方満足度の高い研修となりました。今回のオンライン研修には、日本在住の留学生以外に、母国で入国を待機している学生の参加もありました。新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される留学生にとっては、この交流が貴重な経験となったようです。

本事業は中島記念国際交流財団の助成を受け実施したものです。

<記録写真>



通訳ボランティアとの交流の様子 オンライン交流をする小学校の様子

神楽紹介の動画

<参加者からのコメント>

鄭媛さん(中国)/Zheng Yuan

私は今年4月に島根県に来ましたが、もっと島根県の豊かな歴史文化のを知り、地元の住民と交流したいため、夏休み中邑南町のオンライン研修に参加させて頂きました。

住民の方々との交流はとても楽しくて、気になった方言やグルメなどのことについても詳しく教えていただきました。最も印象的なのは、日本社会の少子化が進んでいる中で、学校の合併もやむを得ずに展開していることです。現在邑南町の小学校では、18名の生徒しかいないことを聞きました。人数が少ないですが、少人数だからこそみんなが仲良くできて、兄弟みたいな存在になって、将来きっと貴重な思い出になるだろうと思いました。

そして、今邑南町では福祉事業を積極的に取り込んでいて、バリアフリーに関する事業が多く行われているという話を聞きました。例えば、視覚障害者も住みやすい町作りのため、盲導犬の飼育や公民館での講座など様々な事業を展開しています。さらに、今年の聖火リレーでは、障害者の方が聖火ランナーに選ばれて盲導犬と一緒に走っていたことを聞いて、とても感動しました。

コロナ禍で、今年の研修はオンラインで行われましたが、邑南町の方々楽しく会話できてよかったと思いました。若干交通不便の所でもあります、機会があれば是非一度遊びに行ってみたくと思っています。

ナム スンヒさん(韓国)/Nam Seunghee

コロナ過で、来日できない状況の私にとっては、島根県に属している「邑南町」という小さな町について学べるこの機会は、大切でした。特に、このプログラムの中で、Day2にある「小学生との交流」が興味深いものでした。日本にいる小学生たちと交流する機会はほとんど経験できない特別な機会だと思ったためです。

交流する小学校は、73年の伝統を持っている「邑南町の石見東小学校」でした。プレゼンテーションを作るのには大変時間がかかりましたが、できるだけ、邑南町の小学生たちに、韓国との国の魅力を教えたいと思いました。そこから、基本的な挨拶や祝日に関する質問の代わりに、韓国でしかない独自のところに集中し、3つの質問を作りました。それらは、韓国のコンビニで売っている異色のものや、誕生日に食べる「ワカメスープ」、韓国のアニメに関する質問でした。私が頑張ってプレゼンテーションを作ったことに応えるように、9月に開催された交流会では、邑南町の小学生たちから熱い反応をもらいました。

残りの時間には、邑南町の小学生たちがグループごとに作った個性的なプレゼンテーションを積極的に発表してくれましたが、その様子がとても印象的でした。小学生たちとの交流を通じて、邑南町は、ソフトアイスクリームが有名で、マスコットは、オオサンショウウオであるのに気づき、面白かったです。

コロナ過でも、オンラインの形で、大切な交流の機会を与えてくれた国際センターに感謝しています。国際センターや小学校の先生たちのお陰で、オンラインの形でも、小学生たちとお互いの顔を見ながら十分にコミュニケーションすることができました。邑南町の小学生との交流は、本当に満足しましたし、忘れられない思い出として記憶に残るはずです。